



2008年度第2四半期 決算説明会

2008年11月5日

積水化成品工業株式会社
証券コード(4228)

2008年度上期決算要約

単位：百万円

	2007上期	2008年度上期		前年同期比	計画比
	実績	計画	実績		
売上高	48,446	50,500	49,395	+2.0%	△2.2%
営業利益	1,029	1,500	1,529	+48.5%	+2.0%
経常利益	914	1,470	1,507	+64.8%	+2.5%
四半期純利益	493	680	682	+38.5%	+0.4%

前年同期比では増収増益

計画対比では売上高は若干未達も、利益はクリア

高機能発泡製品はデジタル家電・自動車向けに国内外で好調

高機能材料は新用途やM & A効果で増収

汎用製品は販売数量減少も価格改定を進める

子会社の採算改善は進めたが、原燃料価格急騰に追いつかず

セグメント別業績概要

単位：百万円

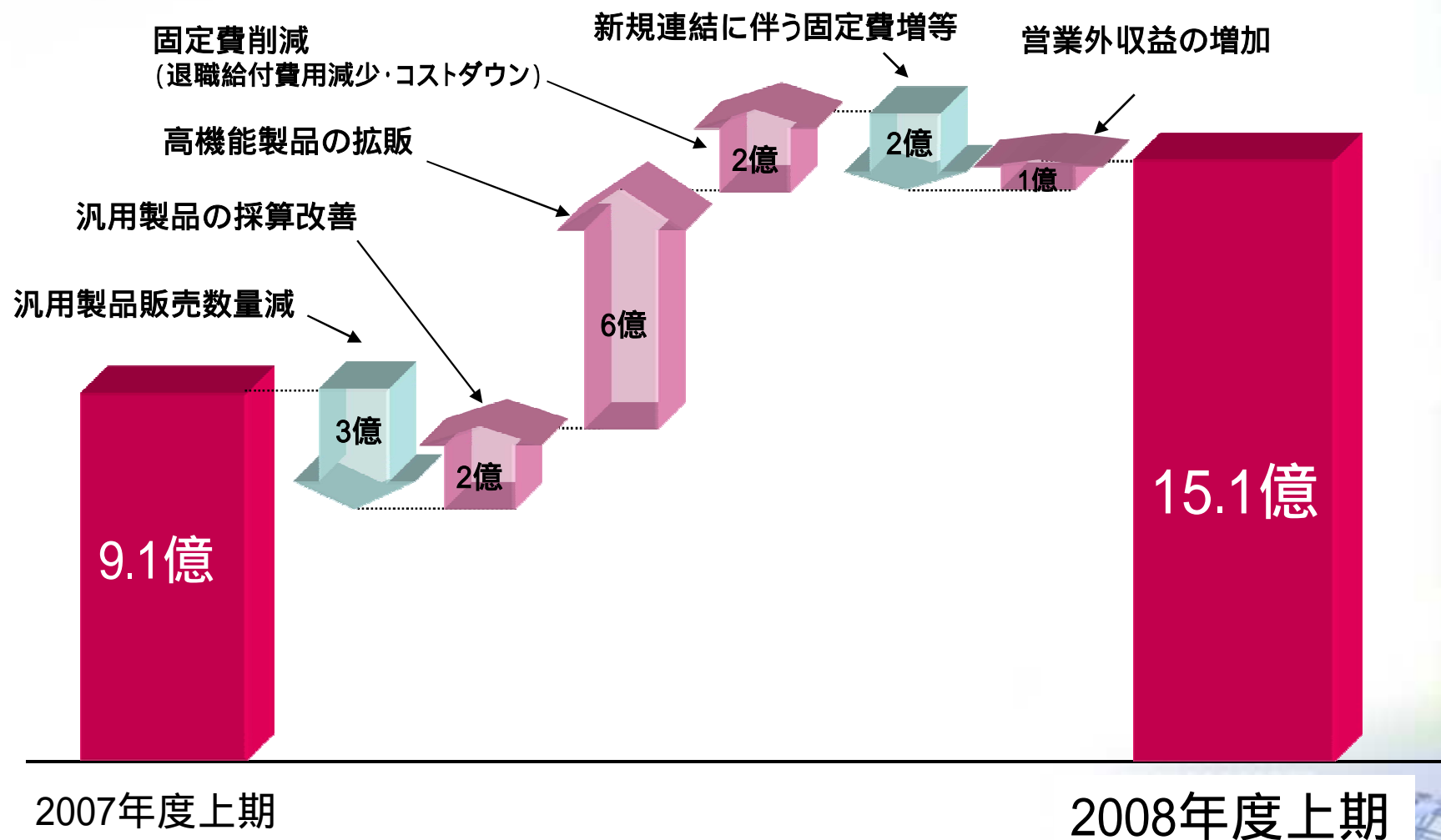
		2007上期	2008年度上期		前年 同期比	計画比
		実績	計画	実績		
樹脂事業	売上高	20,053	22,100	22,131	+10.4%	+0.1%
	営業利益	671	910	1,138	+69.7%	+25.2%
シート事業	売上高	21,263	22,100	21,097	△0.8%	△4.5%
	営業利益	496	630	479	△3.4%	△23.9%
建材事業	売上高	4,792	4,200	4,066	△15.1%	△3.2%
	営業利益	△145	△60	△98	改善	悪化
その他事業	売上高	2,337	2,100	2,100	△10.1%	+0.0%
	営業利益	5	20	10	+84.8%	△45.1%

樹脂事業は、高機能製品の好調と汎用製品価格改定で増収増益

シート事業は、流通食品関連の需要低調と容器軽量化の影響を受け減収減益

建材事業は、構造改革を進めるも、住宅資材需要減と価格改定遅れで利益計画未達

2008年度上期経常利益増減要因



2008年度修正計画

単位:百万円

	2006年度 実績	2007年度 実績			2008年度 当初計画(4/30公表)			2008年度 修正計画		
	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	94,896	48,446	50,115	98,561	50,500	53,500	104,000	49,395	52,605	102,000
営業利益	3,174	1,029	999	2,028	1,500	2,600	4,100	1,529	2,571	4,100
経常利益	2,924	914	549	1,463	1,470	2,530	4,000	1,507	2,493	4,000
当期純利益	1,868	493	219	712	680	1,470	2,150	682	1,468	2,150

売上は年間で若干下方修正、利益は年間で据置き

汎用製品については原料・燃料価格の動向を注視し、適切な対応に努めるとともに、
グループあがての省エネルギー・コストダウンに引き続き取り組む。

高機能製品のグローバル展開をさらに加速し、新機能・新分野での需要開拓を進めることで、
収益目標達成に向け注力。

2008年度修正計画

セグメント別修正計画

単位: 百万円

		2006年度	2007年度			2008年度			
		年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	(当初計画)
樹脂事業	売上高	37,579	20,053	20,953	41,006	22,131	23,069	45,200	(45,600)
	営業利益	1,728	671	629	1,300	1,138	1,422	2,560	(2,400)
シート事業	売上高	42,589	21,263	21,910	43,173	21,097	22,803	43,900	(44,700)
	営業利益	1,550	496	434	930	479	1,011	1,490	(1,600)
建材事業	売上高	9,992	4,792	4,940	9,732	4,066	4,434	8,500	(9,100)
	営業利益	△202	△145	△75	△220	△98	98	0	(40)
その他事業	売上高	4,734	2,337	2,311	4,648	2,100	2,300	4,400	(4,600)
	営業利益	99	5	6	11	10	40	50	(60)

2008年度修正計画

自己株式の取得

- ・取得方法：東京証券取引所における市場買付
- ・買付期間：2008年11月4日～2009年3月31日
- ・買付株数：300万株（上限：発行済株式総数の約3%）
（うち100万株は11月4日立会外買付取引にて買付済み）

<過去の自己株式取得・消却の推移>

2000年度	49.8万株取得、49.8万株消却
2003年度	100万株取得
2004年度	92.6万株取得
2005年度	100万株取得
2006年度	50万株取得、200万株消却
2007年度	37.8万株取得
累計	430.2万株取得、249.8万株消却

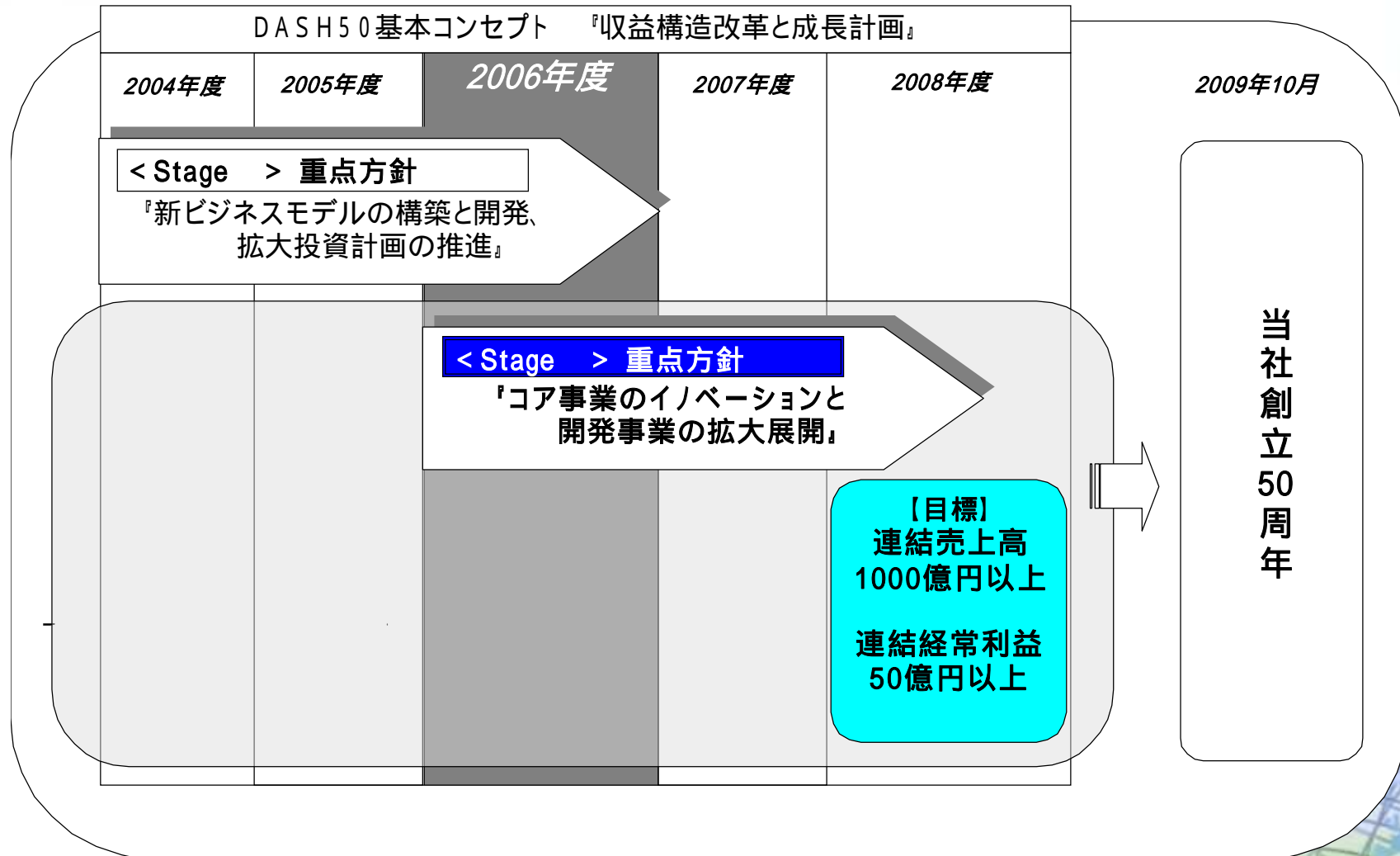
中期経営計画

「DASH50 Stage」

(2006～2008年度)

進捗状況と最終年度目標

【DASH50 Stage】基本コンセプト



【DASH50 Stage】重点課題

DASH 50 Stage

<コンセプト> 収益構造改革と成長計画

～コア事業のイノベーションと開発事業の拡大展開～

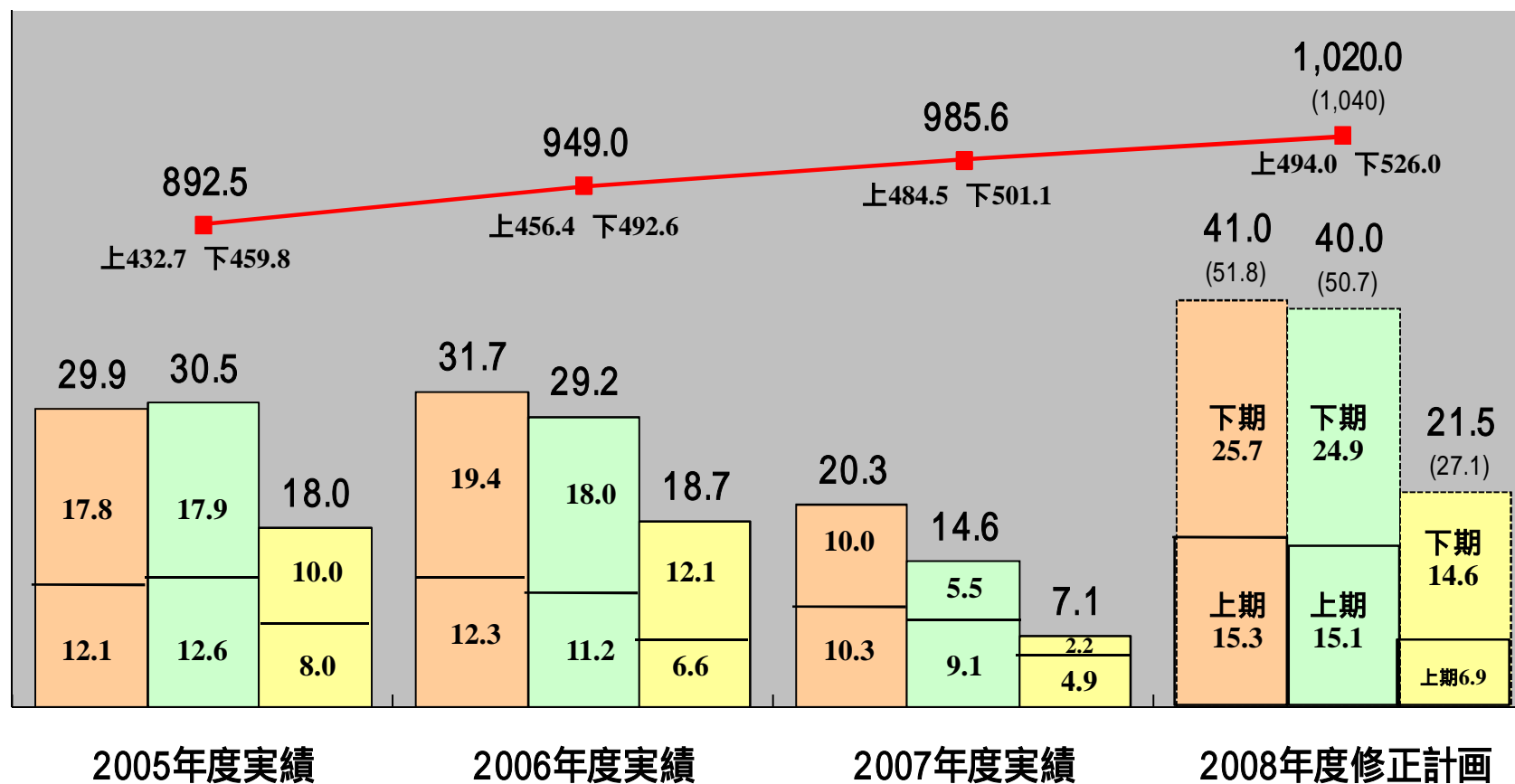
【重点課題】

1. 発泡プラスチック事業のイノベーション
既存事業の事業力強化
高機能発泡材料の事業拡大
環境対応事業の拡大
2. 高機能材料事業の拡大
テクポリマー・テクノゲルの事業拡大
3. 新事業の育成と立ち上げ

【DASH50 Stage】2008年度収益計画

【2008年度施策を着実に実行し、早期に成長軌道に復帰】

単位：億円



()内は社内目標

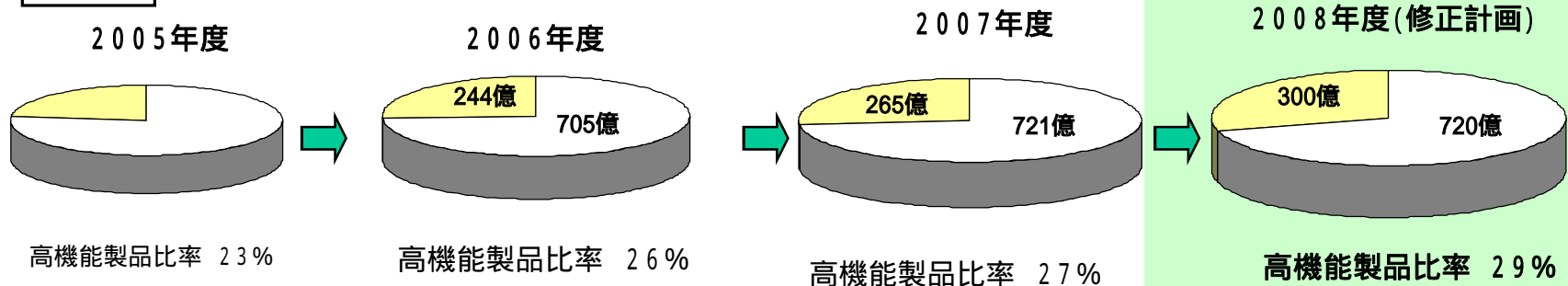


【DASH50 Stage】事業ポートフォリオ変革

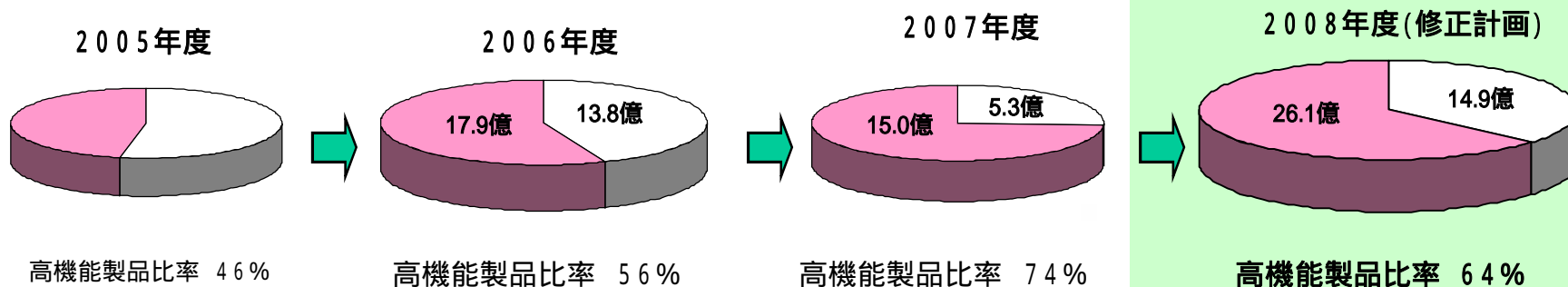
高機能製品の成長による事業ポートフォリオ変革

...成長市場と海外拡販で高機能製品の比率向上

売上高



営業利益



2008年度営業利益...既存製品は限界利益を2006年度ベースに回復 + 固定費削減
高機能製品は拡販による増益

【DASH50 Stage】既存事業の競争力強化

EPS・PSP業界再編の動き

EPS

2008年4月 JSPが日立化成のEPS事業を譲受

PSP

2008年7月 当社がカネカ子会社サンポリマーのPSP事業を譲受すること
とで基本合意



現在公正取引委員会の審査中



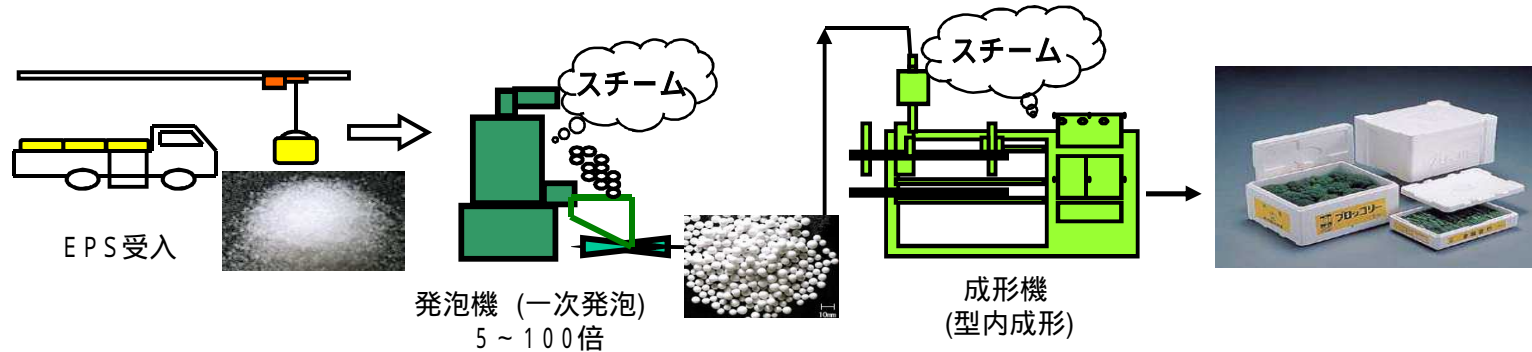
2009年1月をめどに事業譲受完了

本件による影響額は下期修正計画には織り込まず

【DASH50 Stage】既存事業の競争力強化

子会社の省エネ徹底推進

EPSの発泡・成形プロセス→発泡時にスチームが必要なため重油を使用



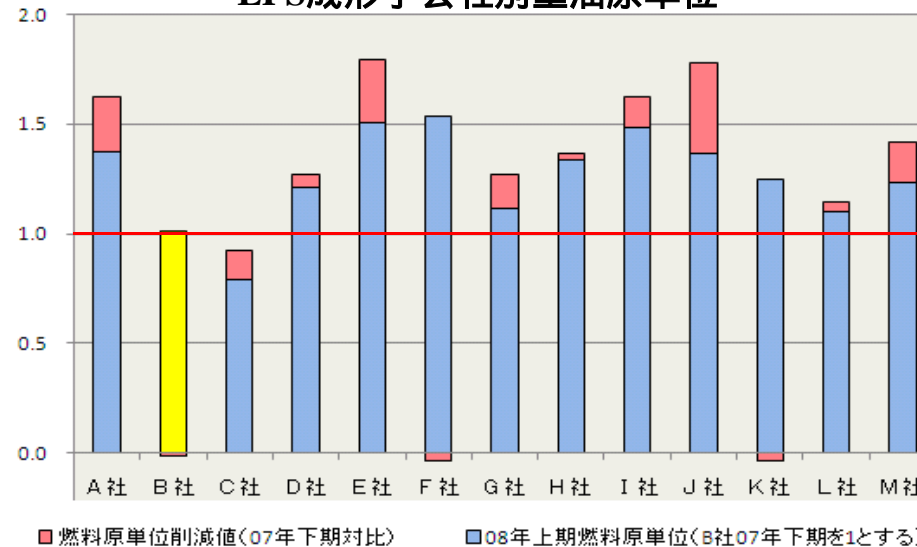
<グループ総力をあげた省エネの取り組み>

- ...重点項目の統一化と徹底取り組み
- ・配管・金型の徹底した蒸気漏れ対策
- ・ボイラー・成形機の圧力ダウン
- ・成形工程の見直し 等

...ベンチマーク(B社)を目標に重油原単位削減推進
2008年度重油・電力費1.5億円/年
削減目標

2008年上期 0.5億円の削減(計画0.5億円)
(重油単価急騰の影響を緩和)

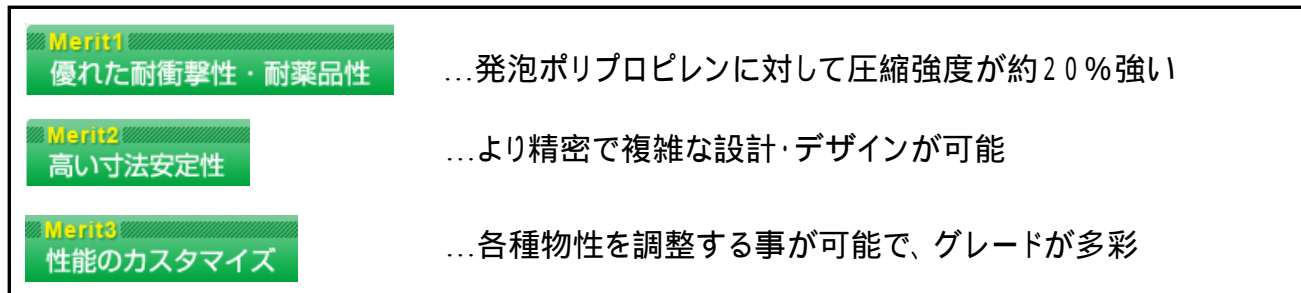
EPS成形子会社別重油原単位



【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

ピオセララン

...ポリスチレンとポリオレフィンを組み合わせた当社独自の複合樹脂発泡品

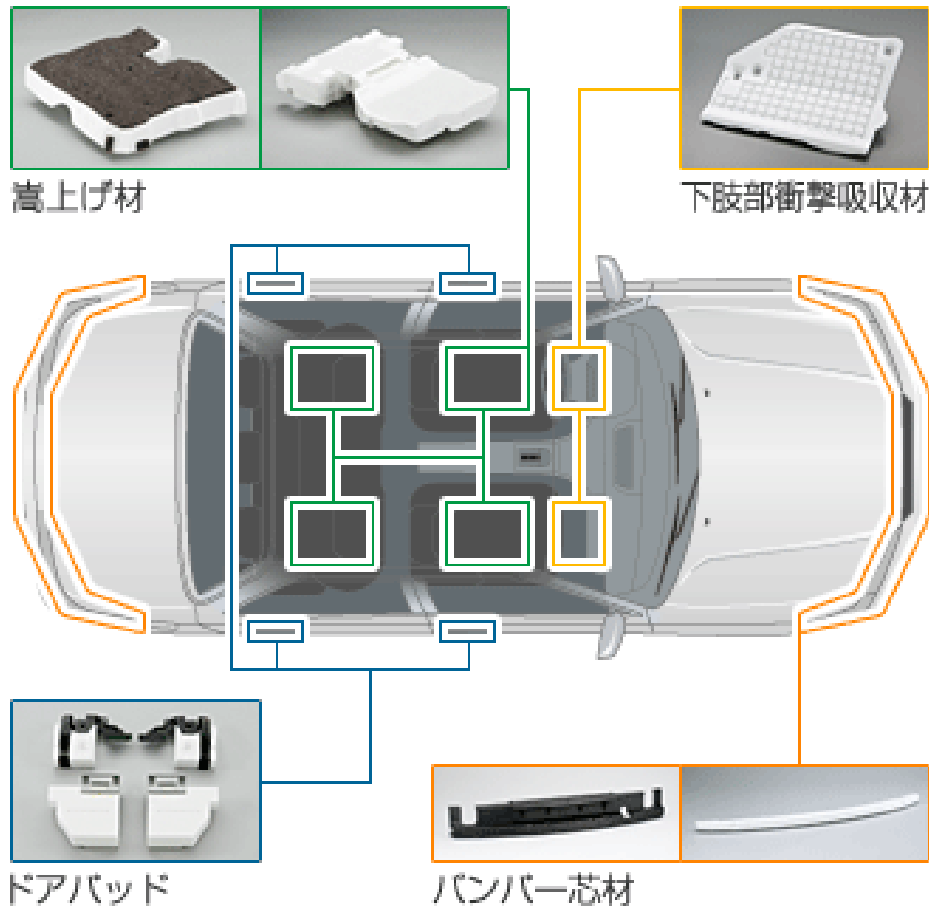


自動車部材

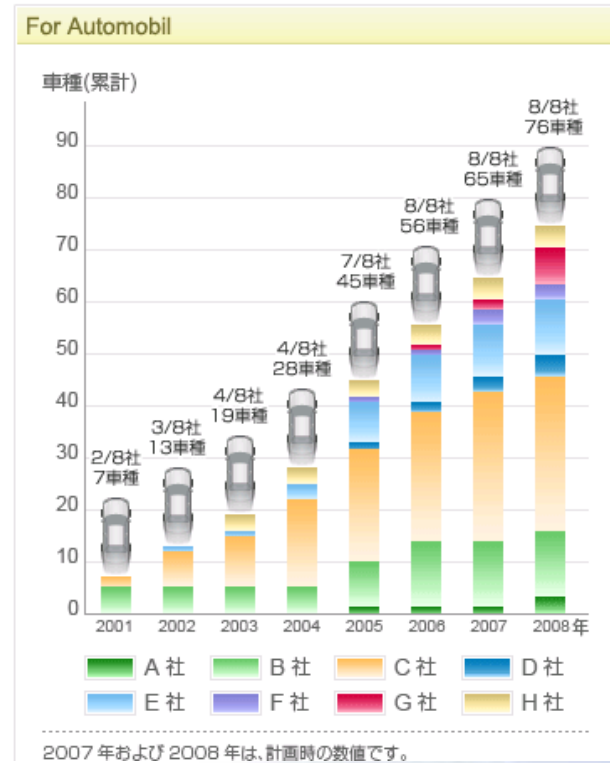
デジタル家電緩衝材

【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

自動車部材



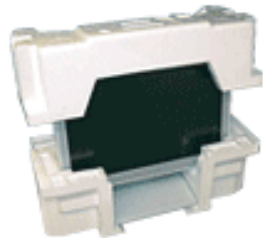
採用件数



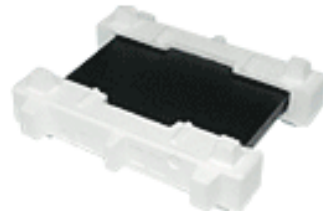
国内乗用車メーカー全8社
でピオセランの部材採用

【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

デジタル家電緩衝材



液晶テレビ用緩衝包装材



ノートパソコン用緩衝包装材

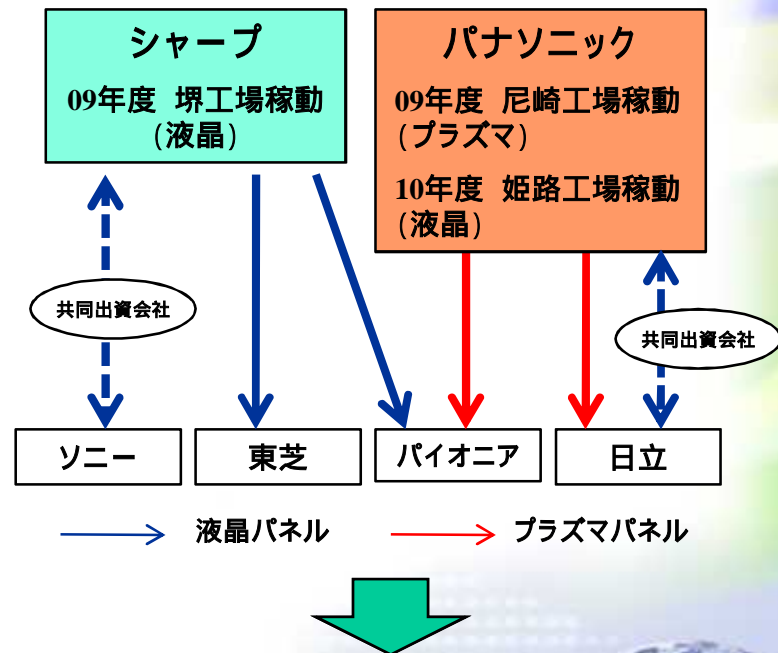


液晶モジュール搬送用BOX
(50インチ)



5.5世代対応大型ガラス
搬送用容器

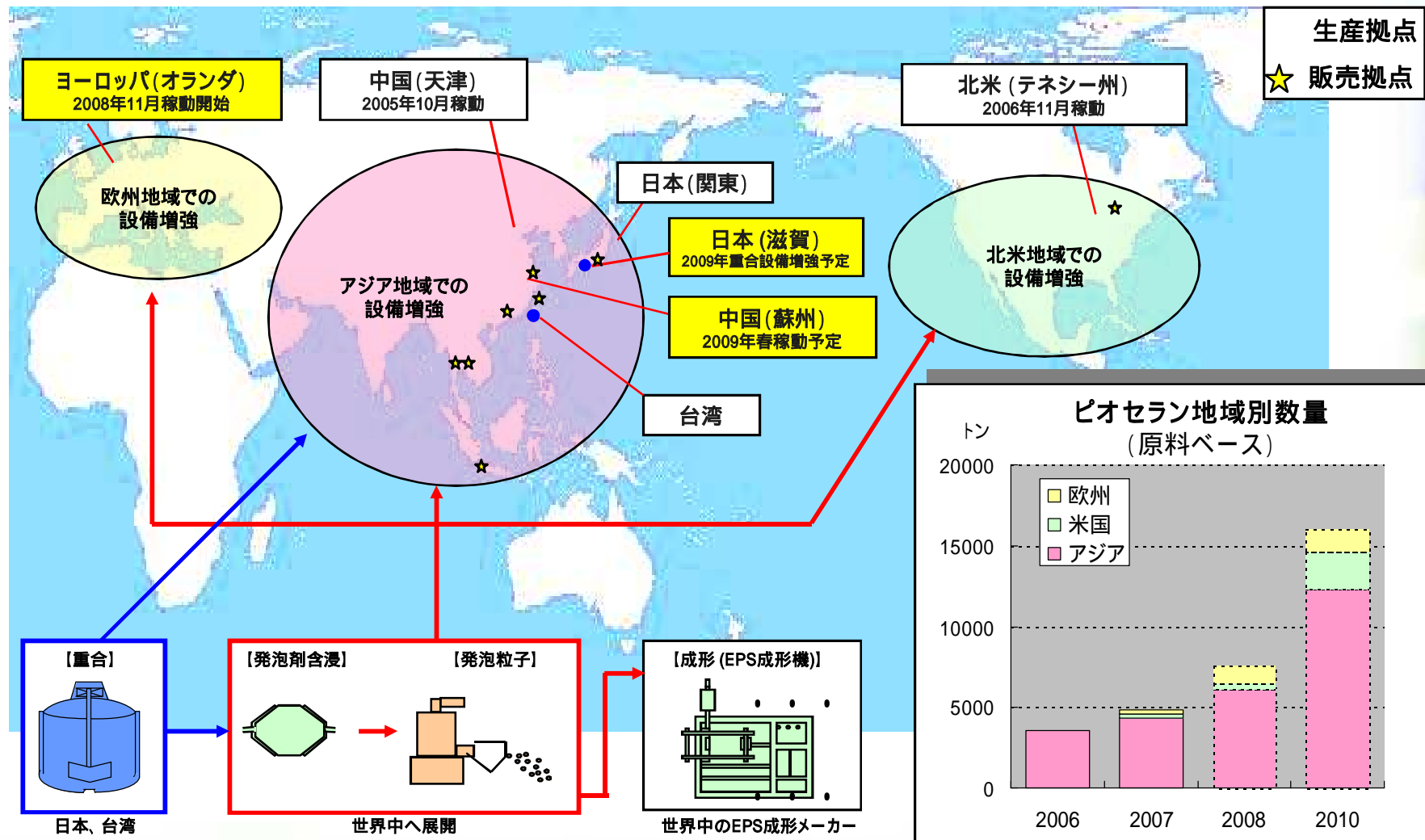
薄型テレビパネルの生産 集約化が進む



パネル搬送用BOXの需要が急増

【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

ピオセラン供給拠点の構築を加速 (2010年度 年産1万6千トン体制目指す 自動車・IT関連メーカー)



2008/11/5

18

【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

【2008年度上期の成果】

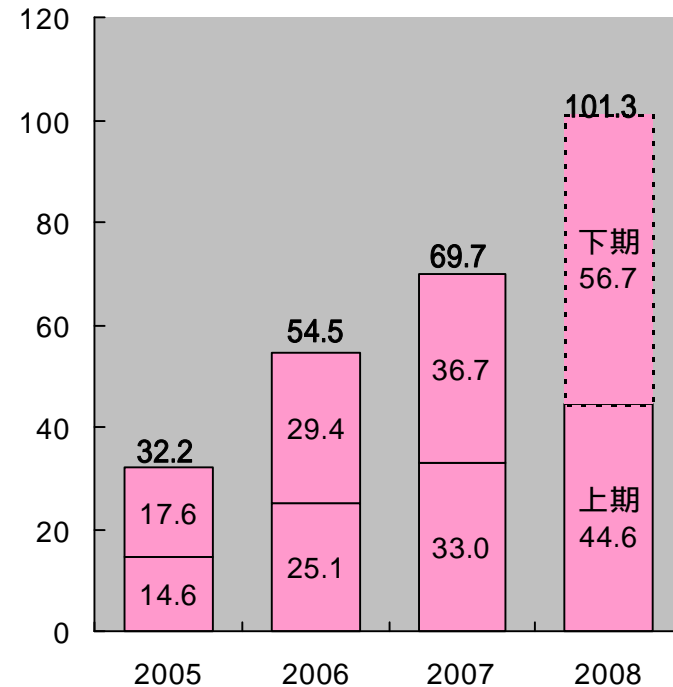
薄型テレビ完成品梱包材はグローバル供給体制整い大幅増
薄型テレビパネル業界再編により搬送容器が大幅に増加
自動車部材は日系自動車メーカー向けで着実に採用増加



【2008年度下期の取り組み】

需要に対応したグローバル生産販売体制構築の加速
生産：欧州工場のスムーズな稼動開始
中国蘇州工場の早期立ち上げ
販売：韓国・台湾販社での本格拡販推進
北米での開発営業力強化
シャープ堺工場に対応した成形工場建設推進
自動車部材新規用途の開発推進
(シート芯材など)
ユーザーニーズに対応した高機能化の開発推進(軽量化・吸音性能・低VOC)

億円 ピオセラン売上高



【DASH50 Stage】高機能発泡製品の事業拡大

ライトロンCE（無架橋高発泡ポリエチレンシート）
ネオマイクロレンSHE（無架橋高発泡ポリプロピレンシート）

薄型テレビをはじめとするデジタル家電や電子部品向け表面保護材として
基盤・コンピュータ関係の部品や携帯電話の保護・緩衝材として



- ・静電気によるホコリ・ゴミの付着を抑制
- ・従来の帯電防止品と比べ、持続性のある帯電防止性能をもつ



2007年8月 ライトロンCEの生産能力増強(生産プロセス大幅改良)
(天理工場、増強能力 700トン/年、投資金額3億円)
2008年下期より大手ガラスメーカー(ライトロンCE)・
液晶パネルメーカー(ネオマイクロレンSHE)へ本格参入



【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

テクポリマー

当社独自の重合技術から生まれた有機微粒子ポリマー



光拡散用途

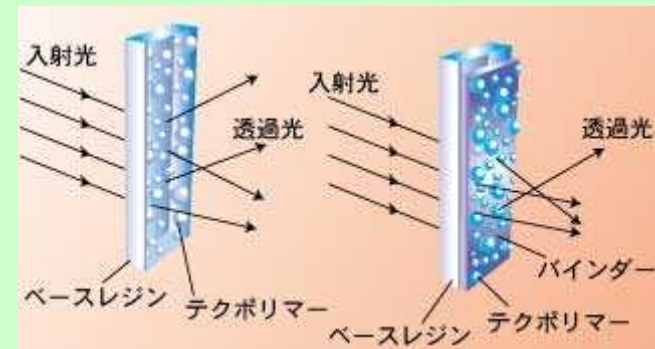
パソコンやテレビの液晶ディスプレイに使用。球状粒子の持つ、均一な光拡散効果でディスプレイ全体を明るくしたり、ディスプレイを見やすくしたりするのに役立っています。



塗料用途 (艶消し効果)

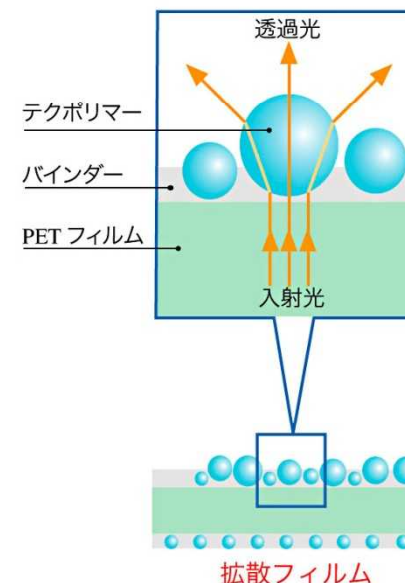
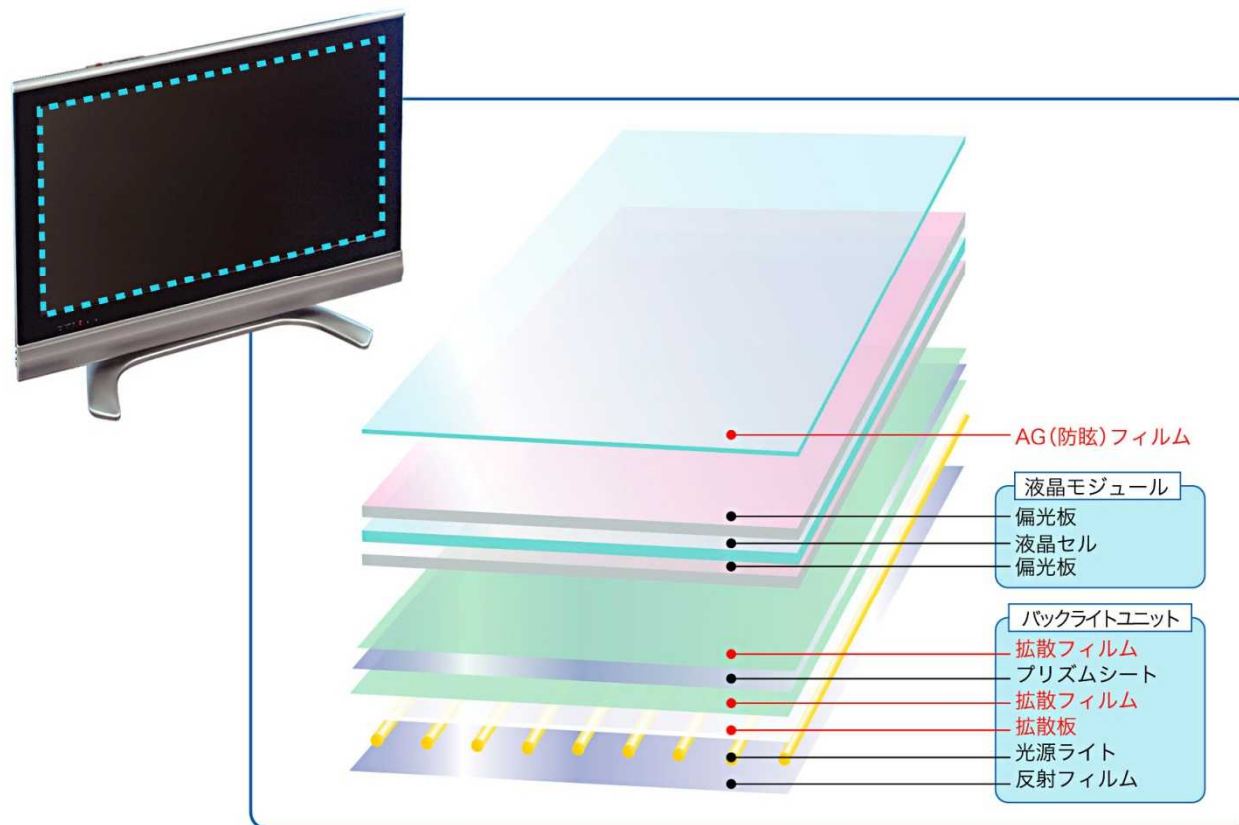


化粧品用途 (しわ隠し、滑り性、触感改良)



【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

液晶テレビの構造



部材点数削減・コストダウン目的でバックライトユニットの簡素化の動きが進む(レンズシートなど)
→従来光拡散機能がなかった部材に光拡散機能を付与する動き(プリズムシート、偏光板、反射フィルム)

【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

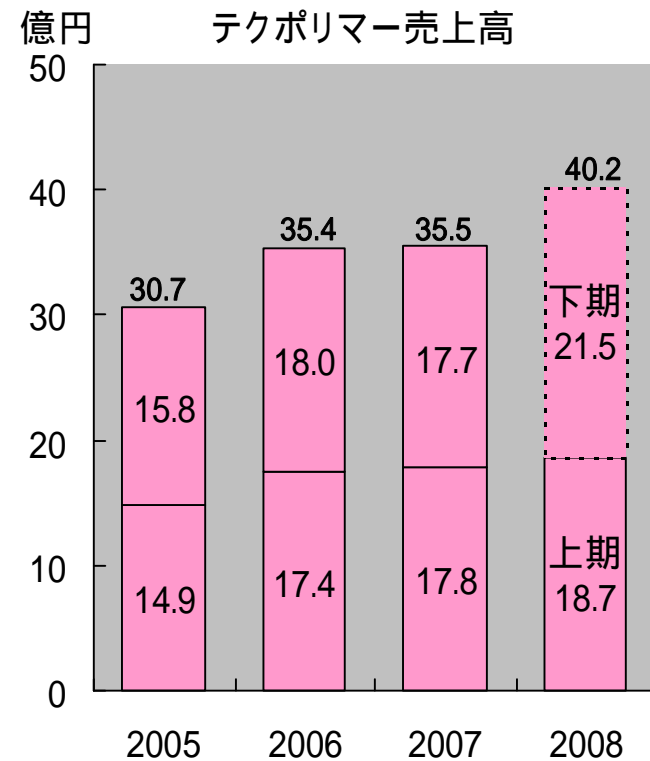
【2008年度上期の成果】

液晶拡散フィルム向けは、部材複合化、業界競争激化の影響を受け伸び悩み
液晶新規用途での需要増(AGフィルム・複合機能シート)
塗料・化粧品用途が伸長(化粧品向けに非真球状微粒子が採用)



【2008年度下期の取り組み】

液晶分野の伸長需要をキャッチアップした
拡販継続と、部材複合化に対応した新規採用の推進
塗料分野の自動車内装向けを国内外で
拡販
新規分野の開拓と実績化
顧客要求に対応した品質の向上と現有
設備での生産能力・効率アップ



【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

テクノゲル

当社独自技術による導電性ハイドロゲル

低周波治療器用パッド



心電図用電極



各種パック材



電気メス用対極板



美容機器用パッド



【DASH50 Stage】高機能材料の事業拡大

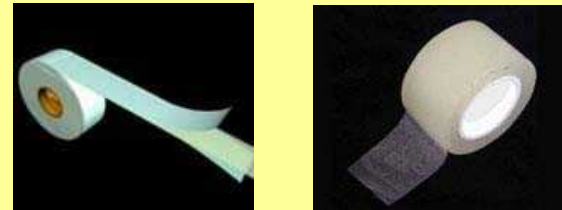
【2008年度上期の成果】

日東電工ハイドロゲル事業を譲受
 (投資額約2億円、2008/4譲受)
 商権(大手医療器具商社等)を確実に承継
 < 譲受事業の製品 >
 アクリル系高分子ゲル(低周波治療器用電極・
 心電図用四肢電極)
 ウレタン系ゲル(心電図用胸部電極)

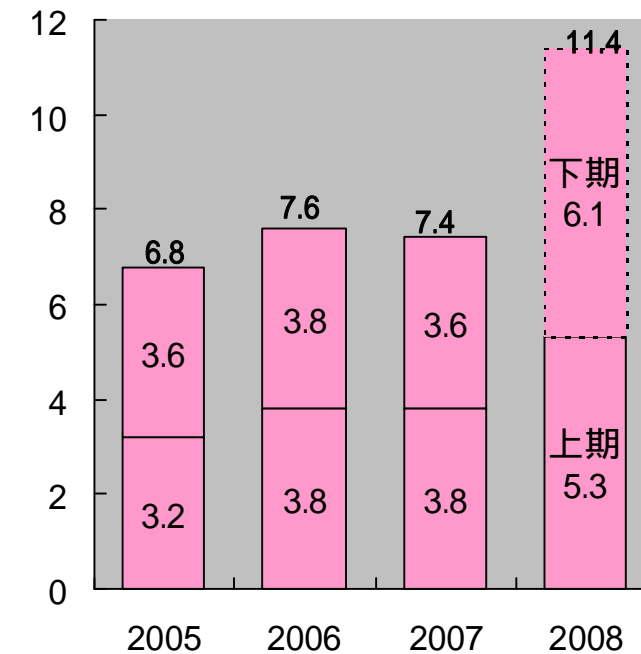


【2008年度下期の取り組み】

ゲルシートの海外向け拡販促進



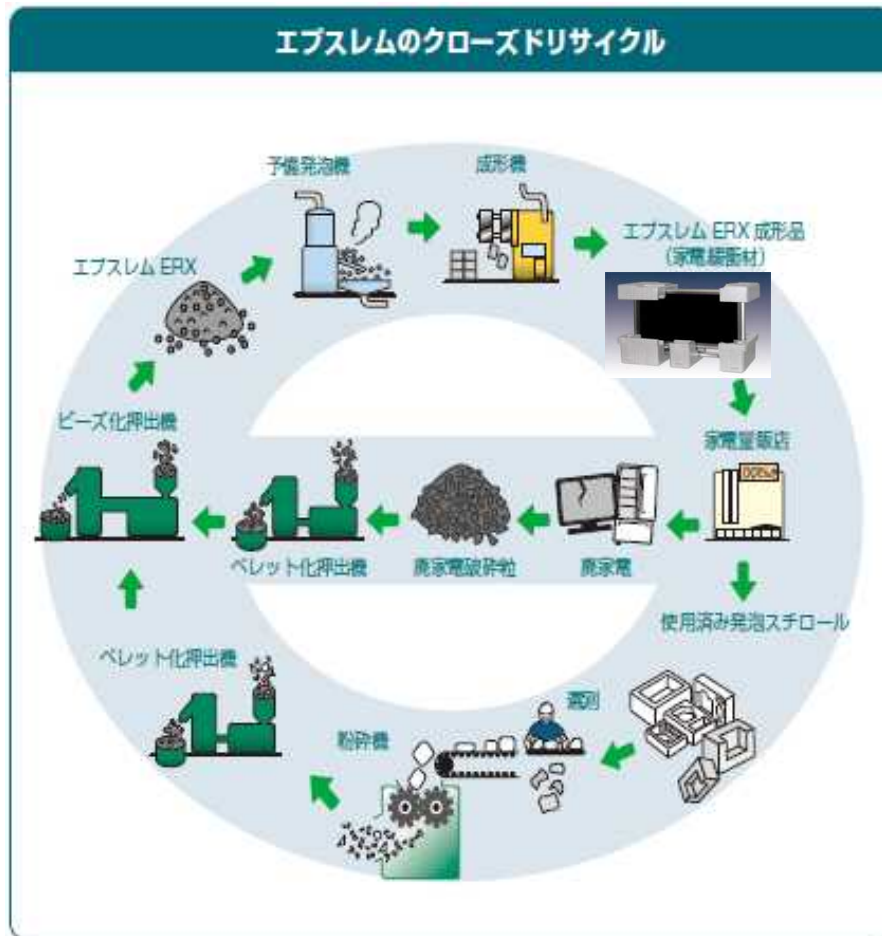
億円 テクノゲル売上高



【DASH50 Stage】環境対応事業の拡大

エプスレム

廃家電樹脂等を利用したリサイクルビーズ

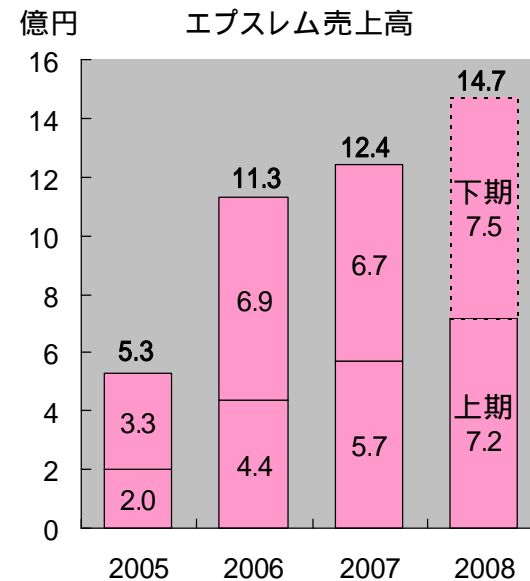


【2008年度上期の成果】

シャープの大型液晶テレビ梱包材が引き続き
順調
パソコン梱包材での採用決定

【2008年度下期の取り組み】

新規顧客の開拓促進(冷蔵庫・エアコン・
パソコン等)
日系家電メーカーの海外拠点への対応検討



【DASH50 Stage】新事業の育成と立ち上げ

植物由来樹脂発泡体

ポリ乳酸樹脂(PLA)

トウモロコシなどの植物から製造される樹脂(カーボンニュートラル性を有する環境負荷が低い材料)

【ポリ乳酸樹脂(PLA)の特性】

...環境適性・耐溶剤性・耐候性
×...耐熱性(通常60℃)

加熱寸法安定性が低く、ビーズ法発泡体として実用化困難

加熱寸法安定性を高めるためには結晶化度を高める必要がある

結晶化度を高めると成型加工が困難

当社独自開発の製造プロセスにより、結晶化度を成型加工中に低く抑制し、最終製品では結晶化度を高くする技術を開発

世界で初めて150℃の加熱寸法安定性を有するビーズ法PLA発泡体を開発

【特長】

加熱寸法安定性に優れる:EPSやEPPより優れた加熱寸法安定性

優れた成型性:省エネ成型可能(低温成型85~90℃)
3D形状の成型可能

耐油性・耐候性に優れる:PLAが本来持つ特性を保持
着色が容易:鮮やかなカラービーズが得られる、成形品へのペイント処理も容易
VOCが発生しない

【現状と今後の取組み】

商品開発プロジェクトチームで用途探索
特に自動車部材・ヘルメットインナー等で有望

事業化に向けた取組みを推進



【DASH50 Stage】新事業の育成と立ち上げ

光学用反射板

当社の高機能樹脂発泡シートをさらに進化させ、光学用途に対応
＜素材＞発泡層を有する無延伸PP系積層シート

【特長】

高反射率:全反射率98%以上(うち98%以上が拡散成分)→光ムラの低減に貢献

高剛性:高いハンドリング性を有する→組み立て時の作業性向上に貢献

熱成形性:熱成形により形状付与が可能

【熱成形のメリット】

バックライトユニットや光源に合わせた光学設計の自由度が向上

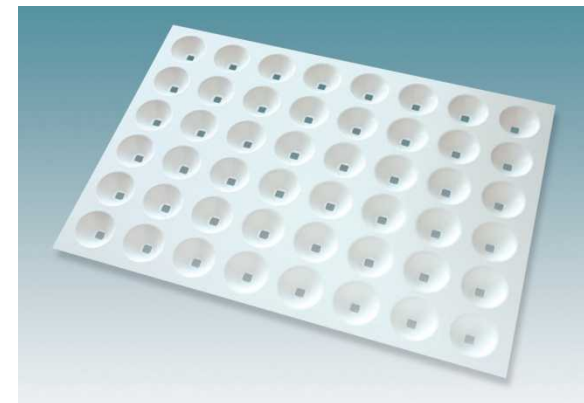
適切な成形により光源の反射効率をアップさせることが可能(明るさアップ・光源数低減・光ムラの低減)

成形により設置剛性がアップ

【現状と今後の取組み】

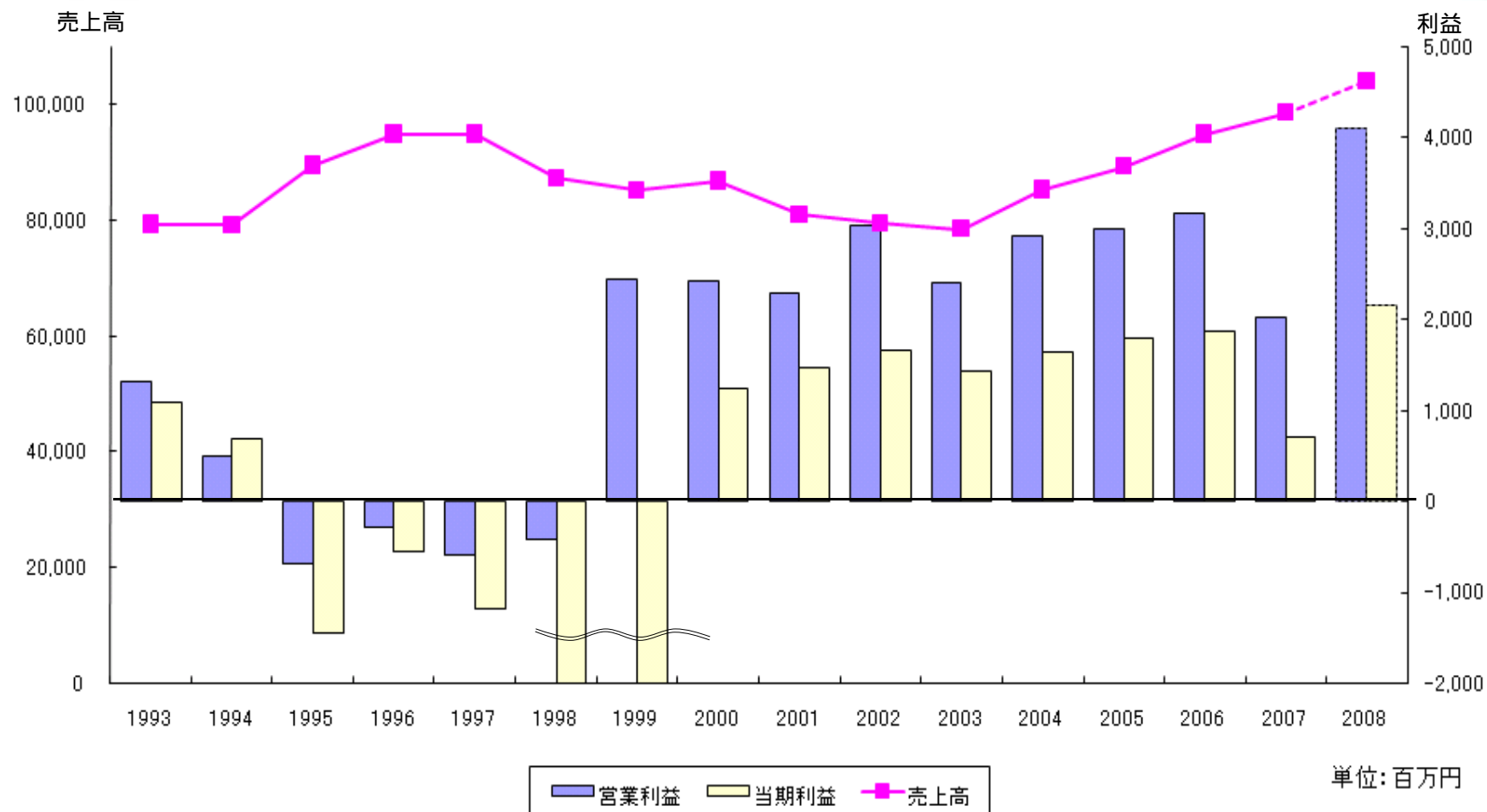
量産試作ラインを設置済みであり、LED用部材、電飾看板・照明用部材を中心にサンプルワーク推進
FPD展2008へ出展

商品化にめどをつけ、事業化を推進



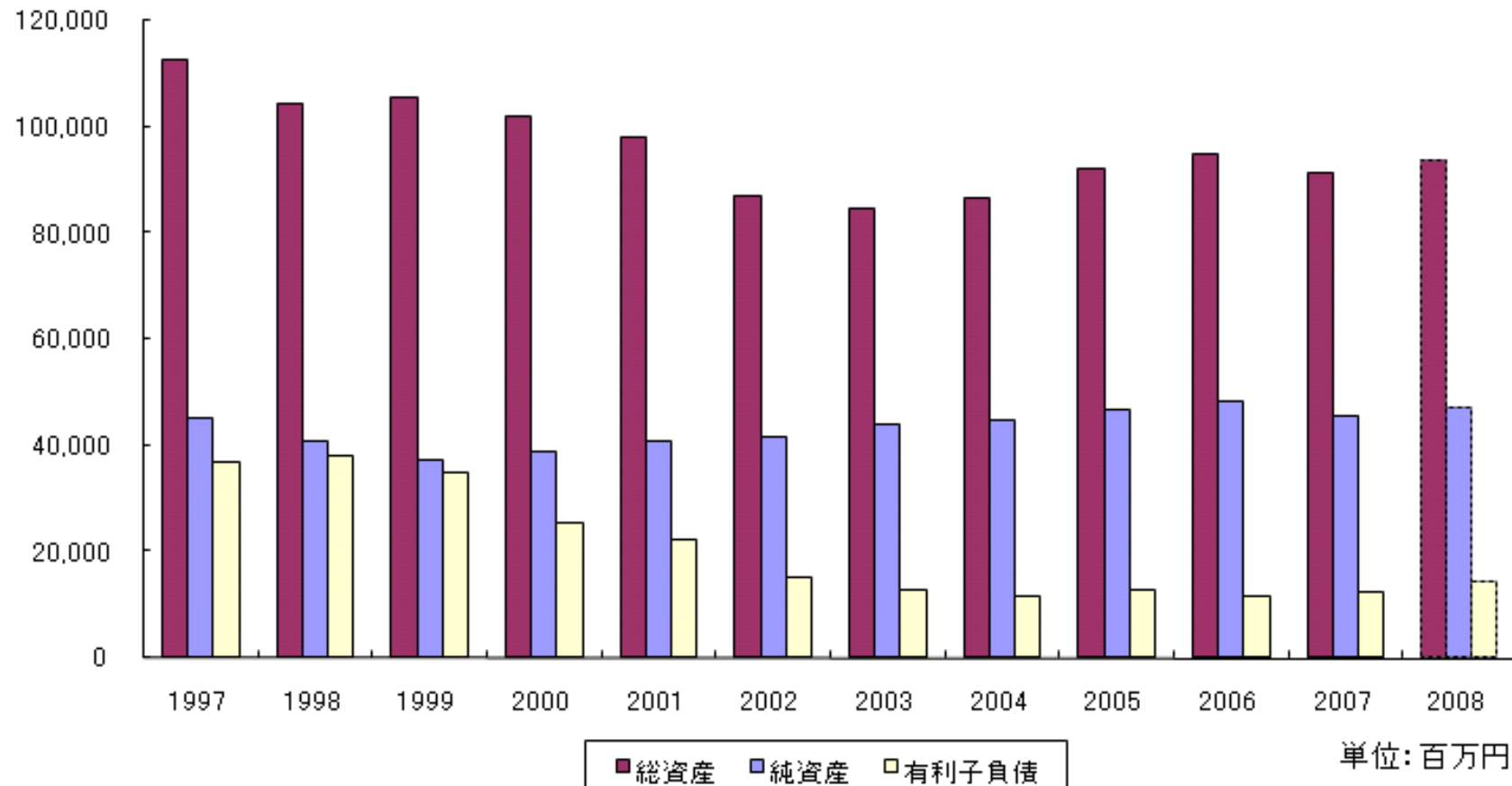
参考資料

【参考資料】 連結経営成績推移



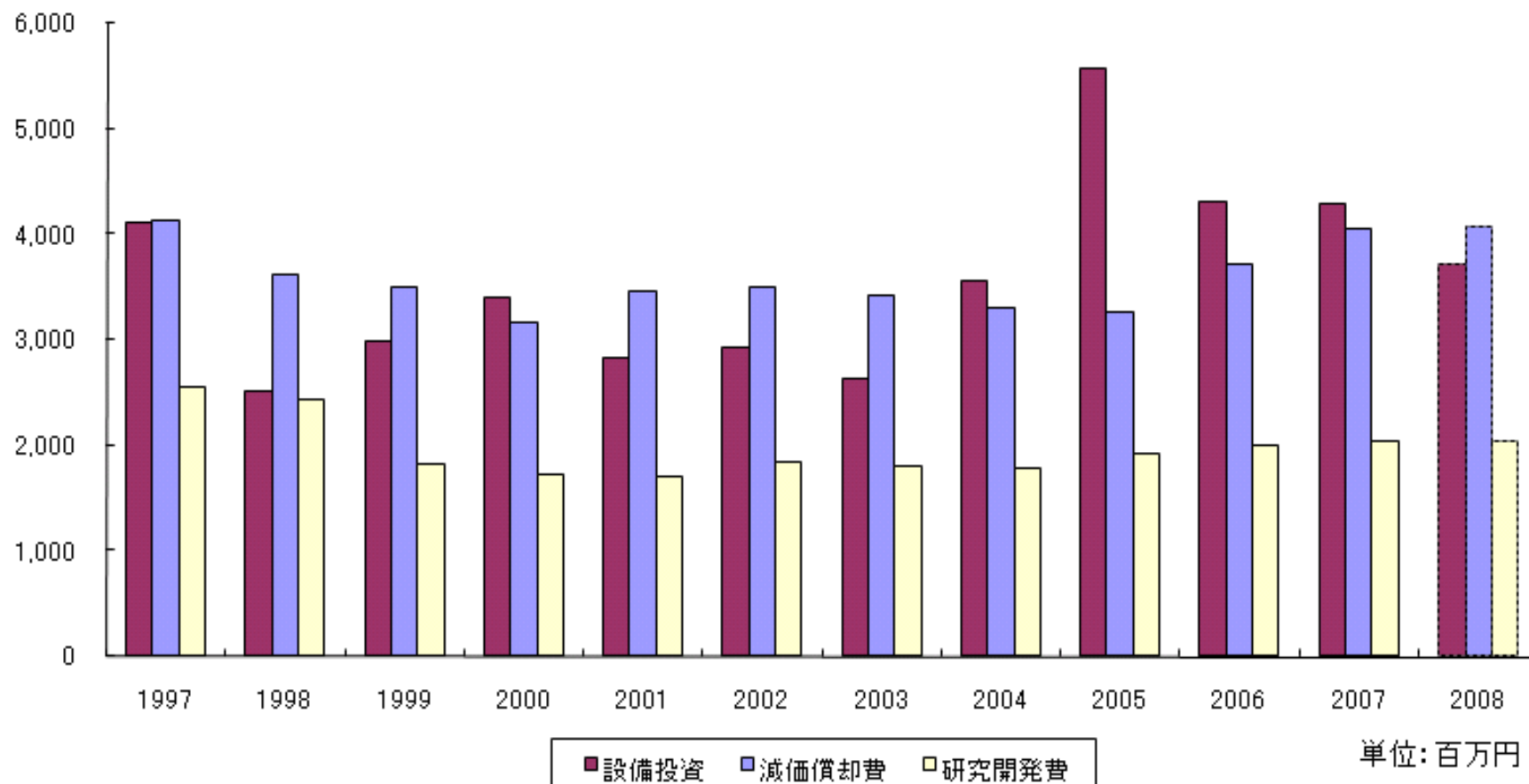
	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
売上高	79,252	79,155	89,501	94,827	94,830	87,244	85,228	86,781	81,020	79,423	78,448	85,244	89,254	94,896	98,561	(102,000)
営業利益	1,312	489	-693	-284	-584	-416	2,435	2,431	2,281	3,042	2,401	2,922	2,992	3,174	2,028	(4,100)
当期利益	1,086	696	-1,442	-549	-1,174	-4,191	-6,101	1,232	1,477	1,667	1,426	1,634	1,801	1,868	712	(2,150)

【参考資料】 連結財政状態推移



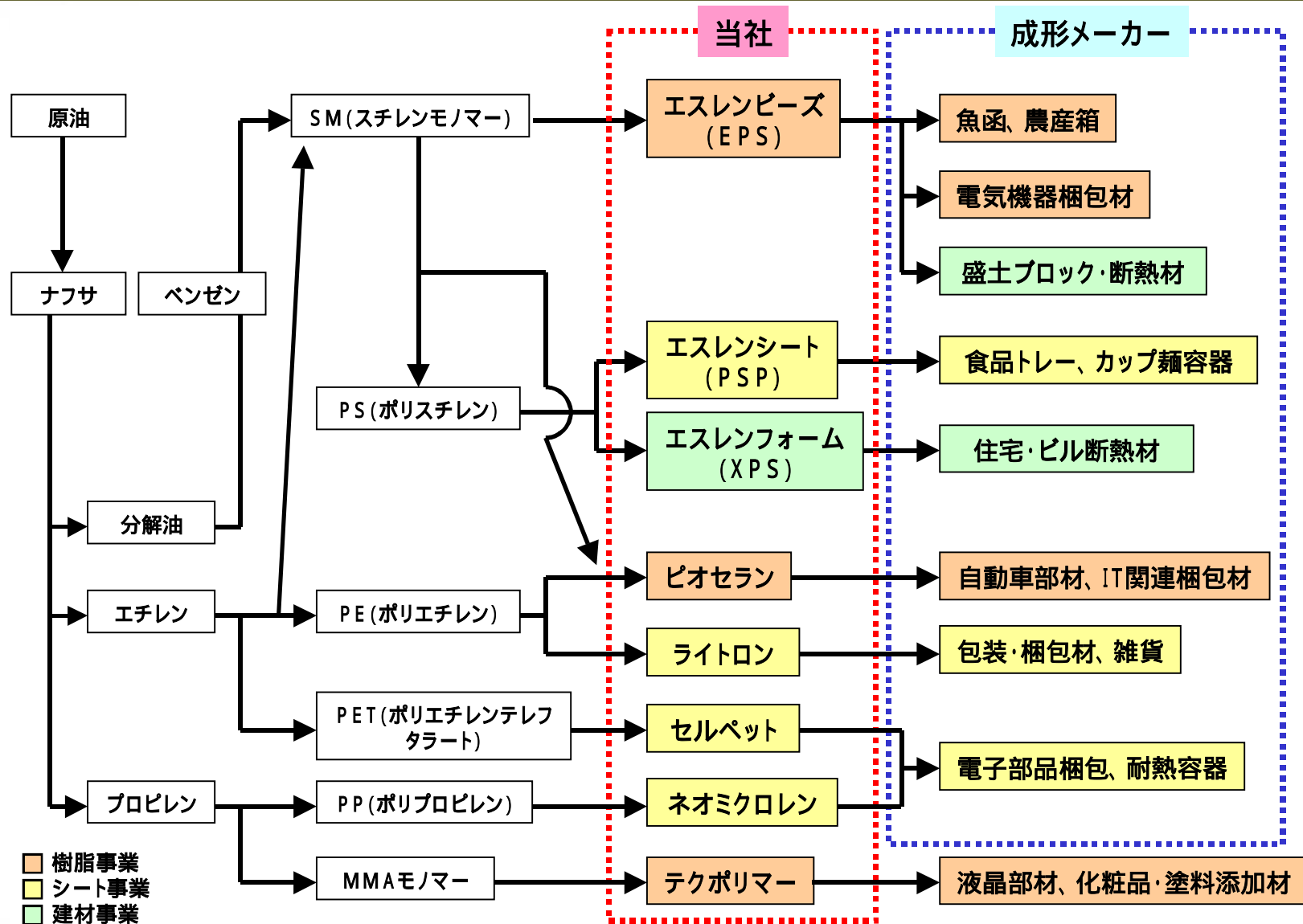
	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
総資産	112,500	104,155	105,558	101,994	97,935	86,963	84,488	86,641	91,900	94,869	91,328	(93,700)
純資産	44,975	40,784	36,984	38,572	40,822	41,338	43,742	44,514	46,437	48,186	45,551	(47,100)
有利子負債	36,584	37,778	34,616	25,450	22,189	14,974	12,445	11,597	12,441	11,298	12,196	(14,300)

【参考資料】 設備投資・減価償却費・研究開発費推移



	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
設備投資	4,108	2,505	2,989	3,401	2,828	2,924	2,617	3,551	5,568	4,293	4,281	(3,730)
減価償却費	4,128	3,610	3,497	3,161	3,456	3,495	3,422	3,296	3,250	3,720	4,050	(4,070)
研究開発費	2,537	2,427	1,810	1,724	1,706	1,827	1,791	1,770	1,914	1,998	2,034	(2,050)

【参考資料】 当社の主要製品と用途



内容に関するお問合せは...

経営企画部(IR) (03)3347-9618 までお願いいたします。

当社のホームページもあわせてご覧ください。

アドレスは <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>

本資料に記載されている見込、計画、見通しなど将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料においては、第1・2四半期(4～9月度)を上期、第3・4四半期(10～3月度)を下期として表記しております。